ヘルスメーター

大腸憩室症について

腸の壁が外側に袋状に出っ張った状態を憩室といいます。多発することが多く、60歳代で約20％の人にあります。憩室があること自体は無症状で特に治療は必要ありません。しかし、大腸憩室炎と大腸憩室出血を起こすことがあります。約1.3ｍある大腸に憩室が多発し、細菌感染等の炎症を起こすと大腸憩室炎になります。

大腸憩室炎の症状

患者さんは腹痛を訴え病院にやってきます。下痢・便秘がないのにお腹が痛くなる。痛みが持続することが多く、右側に多くできることから、急性虫垂炎と区別がつかないことがあります。検査では血液検査で白血球が増えたり、炎症反応のCRP等が上昇します。腹部CT検査で大腸のむくみ等を評価します。また過去に大腸憩室炎を起こしている場合も憩室炎を疑う根拠となります。治療は抗生物質による治療が有効です。炎症が落ち着いたところで大腸内視鏡検査を行います。

大腸憩室出血の症状

大腸憩室出血は、憩室が出っ張ることで粘膜の血管が引き込まれ、何かのきっかけで血管が切れ出血します。突然お尻から出血するので患者さんは慌てて病院に駆け込むことが多いです。出血量が多い場合はショックになるため輸血が必要になることがあります。肛門に近い左の憩室からでは比較的明るい赤色、右側からでは少し黒っぽい出血になる傾向があります。診断と治療には大腸内視鏡検査が必要です。憩室は多発することが多いので出血部位が特定できないことも多く、出血原因の憩室と特定された場合は内視鏡クリップによる止血を行います。

憩室ができる原因として、加齢や食物繊維不足が挙げられます。腹痛・発熱・血便等があったら、お近くの診療所を受診してください。

稲城市医師会　渡辺（わたなべ）　純夫（すみお）